

Solomon-Godeau, Abigail, and Linda Nochlin. *Photography at the Dock: Essays on Photographic History, Institutions, and Practices*. University of Minnesota Press, 1991.

3 章

- ・シカゴ派の構成主義的写真の類は、正当なバウハウスの継承者というよりもやはりアメリカの芸術写真の流れを汲むものであるという指摘。
- ・ニューヨークで生じたモダニストの実践に対して、ソ連、ドイツのモダニズム的実践は芸術家の主体的特権性を拒否した。
- ・ロトチエンコ、リシツキーらの構成主義的写真は西ドイツへと引き継がれる。
- ・ロシア構成主義の実践が輸入された 1920 年代初頭のドイツでは、カメラ・クラブによる逆行的な絵画主義とグラフ雑誌の写真の流通、左翼アヴァンギャルドによるフォト・門ダージュの実践に分化する。
- ・当時の西ドイツは西欧の文化的拠点であり、その中心的やくわるういバウハウスが担ったということ、そしてなかでも写真に限って言えば、1929 年以降の専門化の段階ではペーターハンスがその任についたものの、モホイがその指導者であったと言える。
- ・ロシア構成主義的写真の「政治性」が西ドイツの実践ではほとんど後景へと退き、貴会の時代をめぐる社会的、文化的批評性が高まった。デザインや建築を通して社会の改革を志したバウハウスの理念は、アメリカのシカゴ・インスティテュート・デザインに移植された。
- ・1950 年代初頭までにインスティテュートはカリキュラム的指導へといこうしていった。
- ・Henry Holmes Smith、Harry Callahan、Aaron Siskind などの芸映写真家たちがその卒業生として、インスティテュートのモデルとなった。およそ、1946 年のモホイの逝去から 1951 年にキャラハンがシスキンドを雇用するまでに、インスティテュートはアメリカ文化的になつた。キャラハンがいかにバウハウス的な機械時代の理念から離れて創作を行つたか。それはモホイの影響を引き継ぐよりもむしろ 1960 年代のアメリカの芸術写真と相互的に関係しあつていた。
- ・1940 年代以降アメリカの左翼主義的思想及びその実践がいかに停滞していたかは、その政治的、文化的状況からも見て取ることができる。
- ・戦後の政治的、社会的現実からの後退と芸術写真への参入を、シスキンドの変化に典型的に見ることができる。
- ・キャラハン、シスキンドの提唱した構成主義派、物質主義的な批評的実践というよりも、アメリカの主流文化である理想主義的美学の追及を原動力としている
- ・いわゆるシカゴ派やインスティテュート・フォトグラフィが登場するのは、1960 年代を通してである。当時、写真家の市場的需要および学問としての写真の制度化の急速な発展が背景にあった。